

令和2年度 長岡高校スーパーサイエンスハイスクール

名 称	SSRI・SSRAサイエンスツアー
期 日	令和3年1月28日（木）
会 場	長岡技術科学大学、県立長岡高等学校1学年教室
対 象	1年生全員（普通科・理数科）
目 的	・地元の長岡技術科学大学の先生の講義を受講し、科学や科学技術への興味と関心を高め、その意義や有効性の理解を深める。
内 容	<p>・オンラインにより、長岡技術科学大学で行われる講義を本校教室で聴講する。</p> <p>①長岡技術科学大学 教授 小笠原 渉（技術科学イノベーション専攻） 「地球のエンジン「微生物」を感じてみよう」</p> <p>②長岡技術科学大学 教授 上村 靖司（機械創造工学課程・専攻） 「雪利用最前線～食品熟成からデータセンターまで～」</p>
アンケート 評価	<p>①テーマに対し、積極的に問題意識、関心を持って聞いたか？</p> <p>A（大変よい）78.4% B（よい）22.2% C（ふつう）3.0% D（悪い）0%</p> <p>②講演の内容を理解したか？</p> <p>A（大変よい）66.2% B（よい）31.5% C（ふつう）2.3% D（悪い）0%</p> <p>③自分の生き方や進路・職業を考える上で参考となるものを見つけられたか？</p> <p>A（大変よい）59.3% B（よい）33.3% C（ふつう）7.0% D（悪い）0.3%</p>
感想など	<p>・小笠原先生のお話は、なぜ発酵食品が作られ始めたのか、何のために微生物が働いた食べ物を食べるのかなど、様々な分野と組み合わせて理解を深められた。高峰譲吉の話では、興味や研究、経歴などが他の誰かを助けられるヒントになることがわかった。地域の中にと気づかないことも、他の地域から来た人には多くの発見があるということを知ることができた。</p> <p>・北原さんのお話は「自分で選んで行動すること」「主体的であること」という結論が示され抽象的で難しそうだったが、北原さんの学歴についてのお話を聞いていくうちに、大事な決断をする時には強い意</p>

志を持つ勇氣やより難しい方を選ぶ決断力が大切だと学んだ。

- 既知微生物は 0.002%しかないというのを聞いて、もっと沢山の微生物を発見したら役に立つのではないかと思った。「ありえない」ことを「ありえる」ことにするのがイノベーション。2つの講義を聴いて自分で考えて積極的に行動することが大事だと思った。

- 人間は食べるために進化しているのかもしれないという考えが新しく面白く感じた。発酵食品から、改めて長岡の良さを知ることができた。

- 高峰譲吉の「あなたは社会のために生きていることを忘れてはならない」という言葉が印象的だった。失敗しても社会貢献の姿勢を忘れず挑戦することが大切だと分かった。

- 上村先生は「イノベーション」を、「昨日のあり得ない」を「明日の当たり前」に変えることと定義づけ、「イノベーション」と「マーケティング」が重なったときに新しい価値が生み出されるということだ。私は想像もしていなかった考え方で、すてきな考えだと思った。イノベーションは技術革新で始まり、新結合、価値の創造、そしてゴールは人々の心理を満たすこと、進捗させることだとわかった。私は雪室の話に特に興味を持った。私の家の近くにも立派な雪室があるが、利点や目的については全く知らなかった。省エネ、信頼できる、高値をつけても売れる、新鮮に保てる、温度は常に 0 度、湿度は 100%など、多くの利点があると知り、あらためて雪のありがたみを感じた。また、除雪作業という重労働を運動として新しいエンターテインメントにという考えの中で「2%の人にとって邪魔な雪も 98%の人にとってはワンダーランド」という言葉で今までの自分の考え方が大きく変わった。

- 文系理系を問わず自分の職業を高めているには研究が必要だし、昨日のありえないことを明日の当たり前にするという感覚は大事だと思った。今日存在する職業を目標に勉強したり大学進学したりするのもすばらしいことが、まだない職業を創り出そうというスタンスで勉強すればより積極的になれると感じた。